

第2章 各論

施設類型ごとの現状・課題・方向性

II インフラ資産



1 施設の現状

(1) 施設保有量

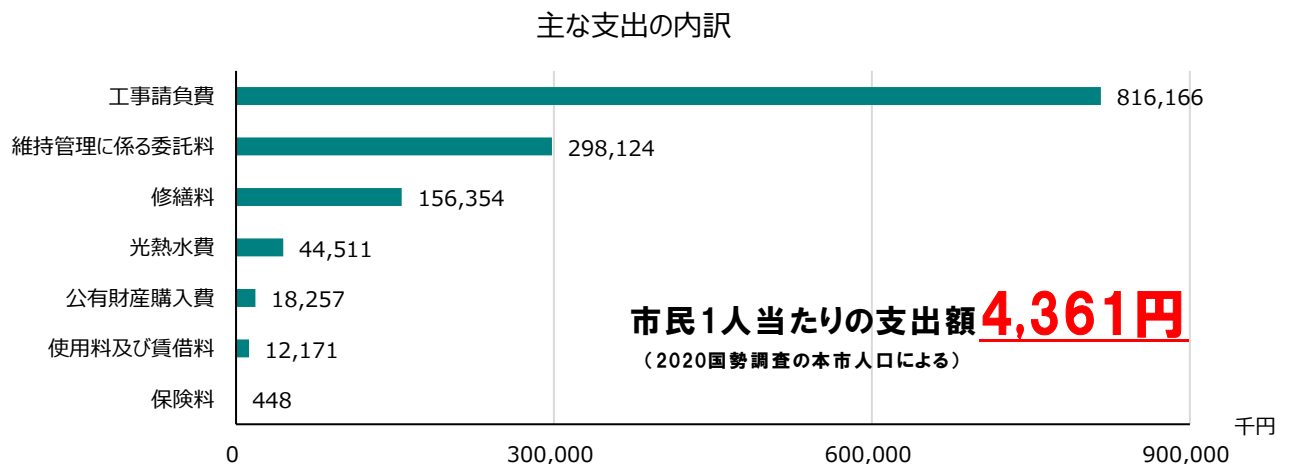
道路の保有量については、次のとおりです。

保有施設一覧 (2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設分類	数量
1	道路(舗装済み)	【延長】1,241,902.5m 【面積】8,347,011.0㎡
2	橋梁(道路法上)	326橋
3	横断歩道橋	19橋
4	門型標識	1基

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の支出は次のとおりです。天王寺橋等の耐震補強工事や幹線道路の舗装修繕等を実施したため、工事請負費が支出全体の58%を占めています。



2 これまでの主な取組

- ・ 幹線道路の中期整備計画や橋梁の長寿命化計画、道路法面の修繕計画を策定し、更新時期の平準化や安心安全な道路ストックの維持に取り組んでいます。

3 課題

老朽化	土地区画整理事業等により整備された道路は、整備された区域ごとに一斉に老朽化するため、定期的な点検や修繕等に取り組む必要があります。
財政支出	多額の工事請負費を要するため、財政支出を平準化する必要があります。
保有量	保有量の縮減は想定できませんが、区画整理事業の推進や工業団地の整備に伴う、保有量の増加に対応していく必要があります。
その他	道路空間を活用した、新たな賑わいの創出を検討していく必要があります。

4 今後の取組

マネジメントの方向性

計画的な修繕等を実施し、財政支出の平準化や縮減に取り組めます。

具体的には…

老朽化	<ul style="list-style-type: none">・既に策定されている計画に基づき改修等を実施します。・職員等による点検を行い、劣化状況等を把握します。
財政支出	<ul style="list-style-type: none">・整備費用に係る財政支出の平準化を図るため、全庁的な視点で調整を行います。・道路協力団体等の道路管理活動を促進するなど、道路空間活用の柔軟化を図ります。
保有量	整備後の維持管理も踏まえた経済的で効率的な整備を行います。
その他	先進自治体の事例を参考にし、道路空間活用の柔軟化を図るとともに、まちの活性化につながる取組を検討します。

1 施設の現状

(1) 施設保有量

保有する河川は、全て準用河川となっており、1級河川と比較すると河川断面等の規模が小さなものになっています。

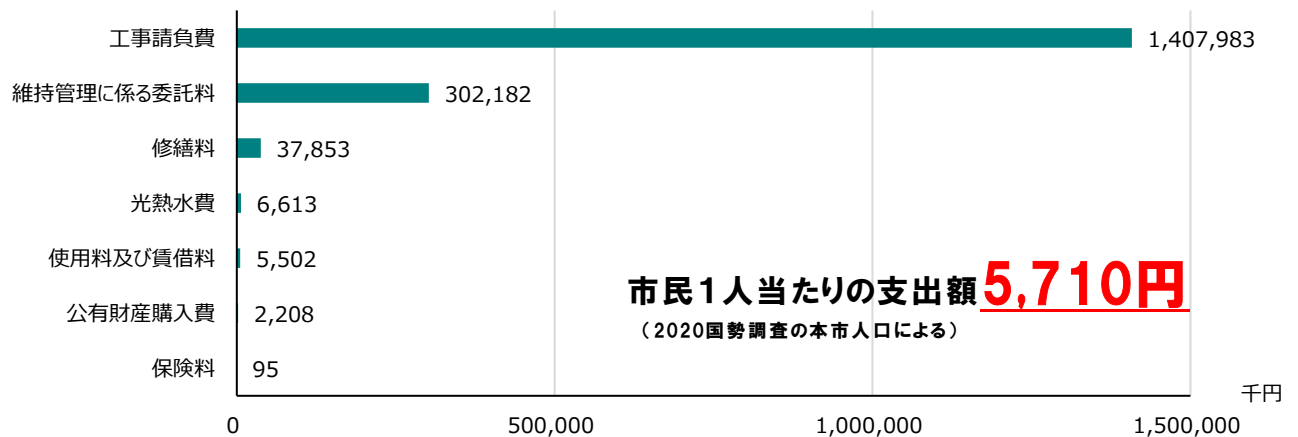
保有施設一覧 (2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設分類	数量
1	河川	【本数】11本 【延長】9,190m
2	ポンプ設備	12箇所
3	樋門・樋管	36箇所
4	堰	1箇所
5	揚排水機場	2箇所
6	雨水貯留施設	65箇所

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の主な支出は次のとおりです。工事請負費については、熊野桜佐地区の雨水貯留施設整備費が主な支出です。

主な支出の内訳



2 これまでの主な取組

- ポンプ設備や陽排水機場、樋門・樋管等については、定期点検を実施し、予防保全に努めています。

3 課題

老朽化	設備の老朽化が進行する中で、災害時に機能が停止しないよう、良好な状態を維持していく必要があります。
財政支出	設備の劣化に起因した突発的な財政支出の解消に取り組む必要があります。
保有量	昨今の気象状況の変化に起因する局地的大雨等によって、本市においても浸水被害が発生しており、現在の保有量では対応できない可能性があります。
その他	—

4 今後の取組

マネジメントの方向性

予防保全を推進するとともに、災害時に対応可能な設備を充実します。

具体的には…

老朽化	・施設保全に係る計画を策定します。 ・職員等による点検を行い、劣化状況等を把握します。
財政支出	定期点検を実施し設備の状態を把握することで、大規模な故障を未然に防ぎ、支出を抑制します。
保有量	基本的には現状の保有量を維持し、浸水被害等への対策が必要な場合は、設備を充実します。
その他	—

1 施設の現状

(1) 施設保有量

落合公園のような大規模公園や地域のシンボルとなっている地区公園など多様な用途の公園を保有しています。

保有施設一覧

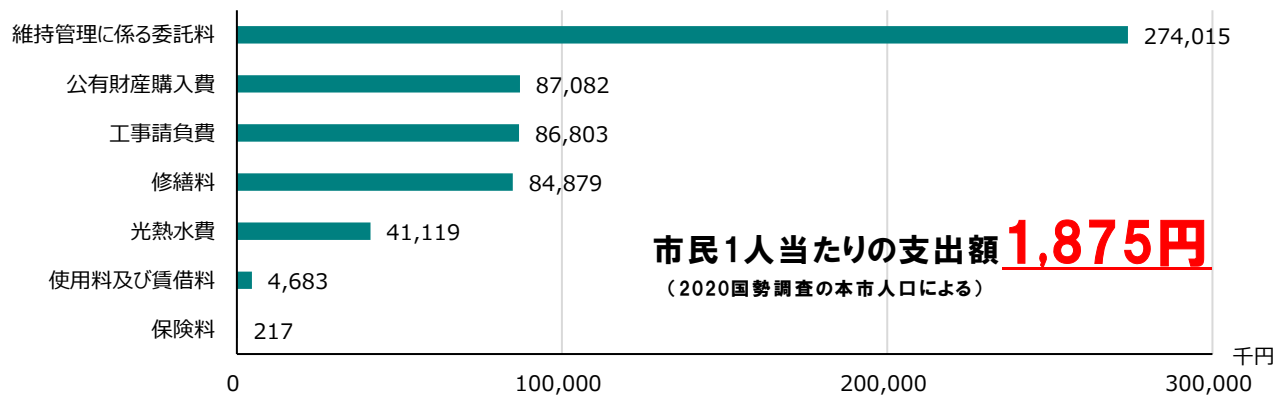
(2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設分類	数量	備考
1	公園	491箇所	高蔵寺河川敷緑地、尾張広域緑地、朝宮公園 都市緑化植物園、ふれあい農業公園を除く
2	墓園	1箇所	
3	建築物(延床面積 100 m ² 以上のもの)	4箇所	落合公園管理事務所、落合公園フォリー水の塔 潮見坂平和公園管理事務所、ハニワの館

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の主な支出は次のとおりです。維持管理に係る委託料については、除草や清掃に伴う費用が主な支出です。

主な支出の内訳



2 これまでの主な取組

- 遊具等については、平成25年度に公園施設長寿命化計画を策定し、計画に基づいた更新や改修等を実施しています。

3 課題

老朽化	多様な世代が利用するため、利用者の安全確保が必要です。
財政支出	老朽化に伴う更新に多くの費用を要するため、財政支出の平準化やライフサイクルコストの縮減に取り組む必要があります。
保有量	遊具については、利用頻度や必要性を検討していく必要があります。
その他	市民ニーズに応じ、施設を有効に活用していく必要があります。

4 今後の取組

マネジメントの方向性

公園施設長寿命化計画に基づき、適切な管理を行います。

具体的には…

老朽化	既に策定した計画に基づき、定期的な点検や予防保全を推進します。
財政支出	既に策定した計画に基づき、施設の長寿命化に取り組み、維持管理費の縮減に努めます。
保有量	財政支出を考慮し、遊具の適切な保有量を検討します。
その他	公園内のスペースを民間事業者に提供するなど、公園活用の柔軟化を図ります。

1 施設の現状

(1) 施設保有量

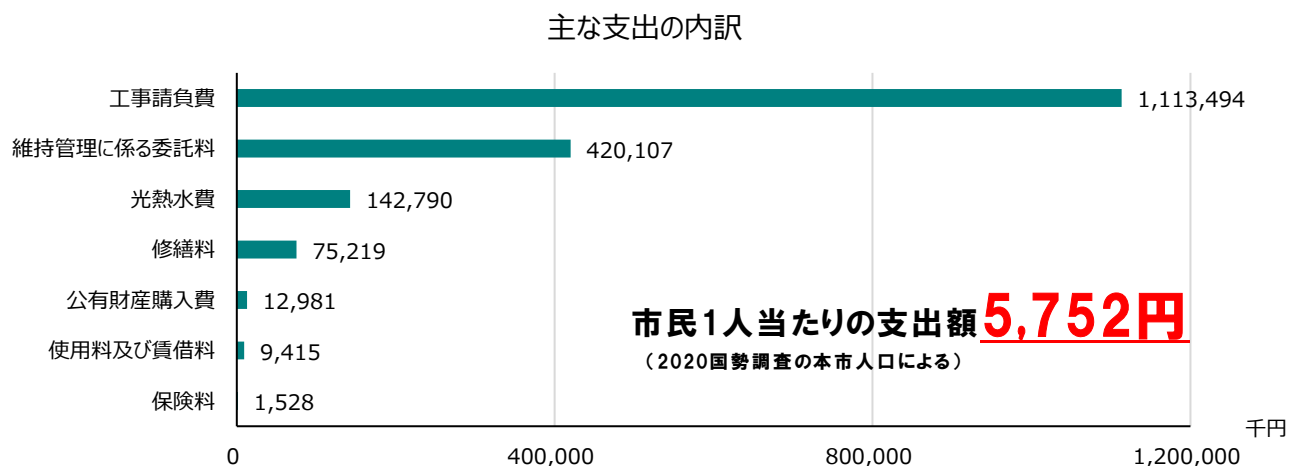
管路や施設については、安全な水の安定した供給を行うため、次のとおり保有しています。

保有施設一覧 (2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設分類	数量
1	管路	【延長】1,332,509m
2	浄水施設	2箇所
3	配水池	26箇所
4	ポンプ場	7箇所

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の主な支出は次のとおりです。工事請負費については、老朽化した管路の更新や耐震化が主な支出です。



2 これまでの主な取組

- ・ 上水道については、2018(平成30)年3月に水道事業経営戦略を策定し、計画に基づいた更新や改修等を実施しています。
- ・ 廻間送水場については、老朽化が進行していたため、経済性などについて比較検討を行った結果、2018(平成30)年10月に廃止しました。
- ・ 玉野ポンプ場については、受水先の変更に伴い、ポンプ圧送が不要となったため、2021(令和3)年3月に廃止しました。

3 課題

老朽化	昭和40年代から昭和50年代に、人口の急増に合わせ急速に水道施設整備を行っており、当時整備した施設が、今後一斉に老朽化するため、計画的に更新していく必要があります。
財政支出	老朽化に伴う更新に多くの費用を要するため、財政支出の縮減に取り組む必要があります。
保有量	施設や管路については、人口減少に伴う水需要の変化を見通し、適正な保有量とする必要があります。
その他	地震災害における被災範囲を最小限に抑える取組を推進する必要があります。

4 今後の取組

マネジメントの方向性

水道事業経営戦略に基づき、適切な管理を行います。

具体的には…

老朽化	既に策定した計画に基づき、水道施設の更新を実施します。
財政支出	・常に収益と費用のバランスを意識し、必要な更新を行っていきます。 ・財政支出を縮減するため、民間活力の活用について調査研究します。
保有量	水需要の将来的な推移を見通し、必要があれば施設の統廃合やダウンサイジング等を検討します。
その他	既に策定した計画に基づき、送水管や防災拠点までの配水管の耐震化などを推進します。

1 施設の現状

(1) 施設保有量

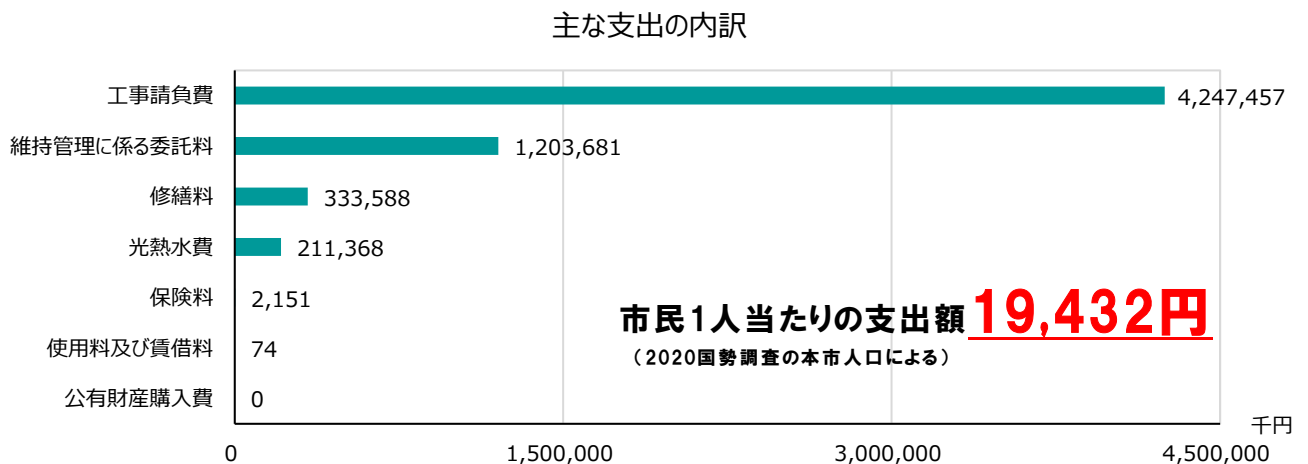
2020（令和2）年度末の下水道普及率は、69.1%となっており、今後も面整備を促進していく必要があり、管渠の保有量は増加することが見込まれています。

保有施設一覧 （2021（令和3）年3月31日現在）

No.	施設分類	数量
1	管渠	【延長】1,291,643m
2	処理場	3箇所
3	ポンプ場	5箇所
4	雨水貯留施設	4箇所

(2) 財政支出

2020（令和2）年度の主な支出は次のとおりです。工事請負費については、熊野桜佐地区における雨水幹線等整備が主な支出です。



2 これまでの主な取組

- ・ 下水道については、2020（令和2）年3月に公共下水道事業経営戦略を策定し、計画に基づいた更新や改修等を実施しています。

3 課題

老朽化	下水道は、整備された区域ごとに一斉に老朽化するため、定期的な点検や修繕等に取り組む必要があります。
財政支出	老朽化に伴う更新に多くの費用を要するため、財政支出の平準化に取り組む必要があります。
保有量	下水道普及率は未だ69.1%のため、整備を推進していく必要があります。
その他	地震や風水害に伴う被害を軽減するための更なる対策が必要です。

4 今後の取組

マネジメントの方向性

公共下水道事業経営戦略に基づき、施設の整備や適切な管理を行います。

具体的には…

老朽化	既に策定した計画に基づき、設備等の更新を実施します。
財政支出	<ul style="list-style-type: none">・常に収益と費用のバランスを意識し、必要な更新を行っていきます。・既に策定した計画に基づき、施設の長寿命化に取り組めます。・財政支出を縮減するため、民間活力の活用について調査研究します。
保有量	<ul style="list-style-type: none">・既に策定した計画に基づき、施設や管渠を計画的に整備していきます。・2037（令和19）年度までに高蔵寺浄化センターを廃止し、南部浄化センターに統合します。
その他	既に策定した計画に基づき、施設等の耐震化や雨水管等の整備を進めます。

1 施設の現状

(1) 施設保有量

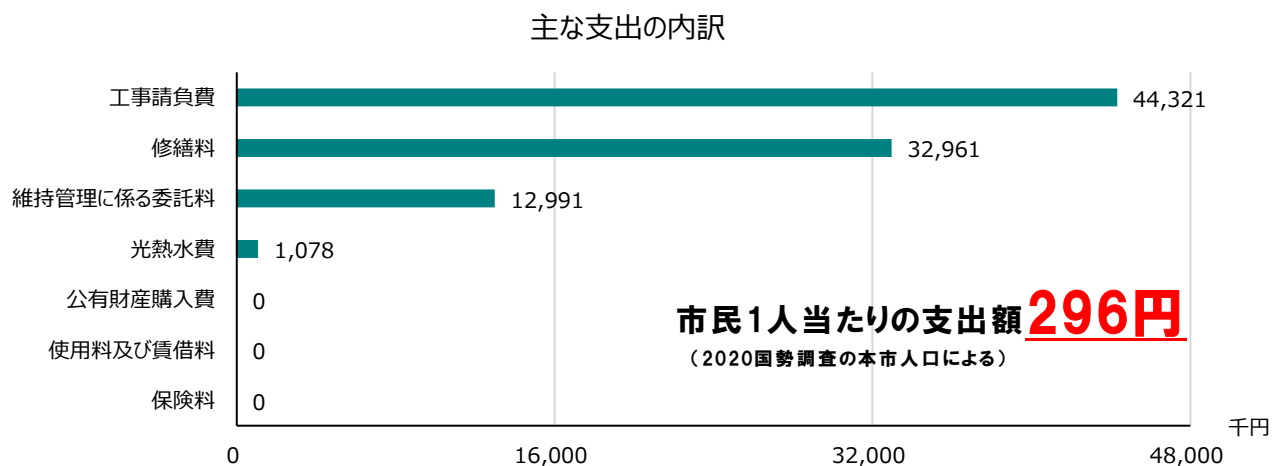
保有量は、受益地の縮小に伴い減少傾向にあります。

保有施設一覧 (2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設分類	数量
1	堰	14箇所
2	ポンプ設備	4箇所
3	ため池	63箇所

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の主な支出は次のとおりです。工事請負費については、ため池や堰の改修工事に係る費用が主な支出です。



2 これまでの主な取組

- 農業用施設については、平成26年度に農業用施設更新計画を策定し、計画に基づいた更新や改修等を実施しています。

3 課題

老朽化	1980年代に整備された施設が多く、老朽化が進行しているため、定期的な点検や改修等に取り組む必要があります。
財政支出	整備時期が集中しているため、財政支出の平準化に取り組む必要があります。
保有量	将来的な受益地を見通し、適正な保有量とする必要があります。
その他	—

4 今後の取組

マネジメントの方向性

農業用施設更新計画に基づき老朽化対策を促進し、農業用水の安定供給に努めます。

具体的には…

老朽化	既に策定した計画に基づき、設備の更新やオーバーホールを実施します。
財政支出	設備更新に係る財政支出の平準化を図るため、全庁的な視点で調整を行います。
保有量	将来的な受益地を見通し、必要があれば施設規模の見直しや効率的な配水ルートを整備等を検討します。
その他	—

1 施設の現状

(1) 施設保有量

環境プラントの保有量については、次のとおりです。

保有施設一覧

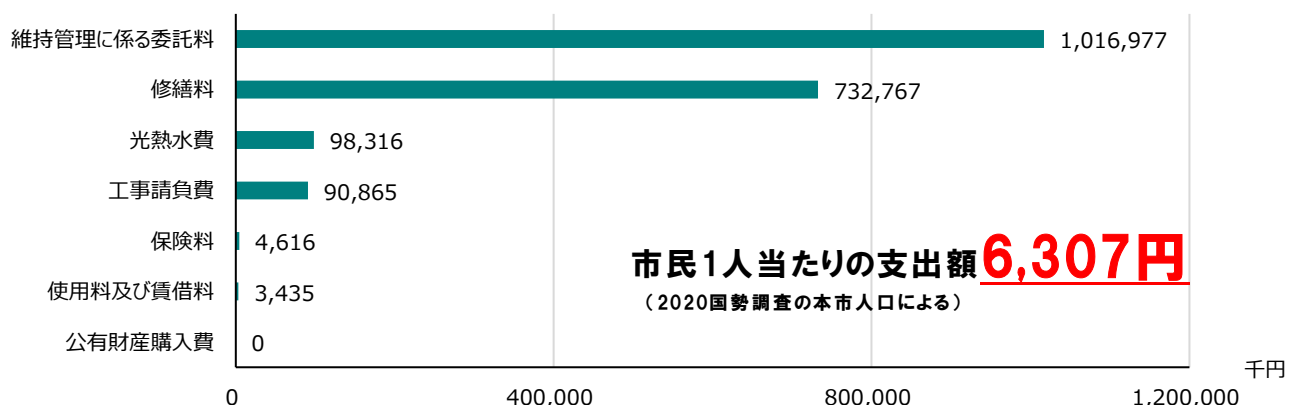
(2021(令和3)年3月31日現在)

No.	施設名称	所在地	建築年度	敷地面積(㎡)
1	クリーンセンター	神屋町1番地2	1990	45,300.76
2	衛生プラント	御幸町1丁目1番地2	1988	9,576.33
3	内津最終処分場	内津町字南山492番地	1998	28,858.00
4	内津北山最終処分場	内津町字北山357番地	2016	70,324.00

(2) 財政支出

2020(令和2)年度の主な支出は次のとおりです。維持管理に係る委託料については、クリーンセンターの運転管理や設備点検等に係る委託料が全体の約92%を占めています。

主な支出の内訳



2 これまでの主な取組

- ・ クリーンセンターについては、数年先を見通した修繕計画を策定し、修繕費用の平準化に取り組んできました。また、省エネルギー委員会を立ち上げて、光熱水費の縮減に取り組むとともに、2021(令和3)年度には、長寿命化総合計画を策定し、今後、施設改修を実施していきます。
- ・ 衛生プラントについては、平成26年度に長寿命化計画を策定し、2016(平成28)年度から2018(平成30)年度に基幹的設備改修工事を実施し、施設の延命化を行いました。

3 課題

老朽化	設備等の処理効率の低下が顕在化しているため、老朽化の進行を予防する必要があります。
財政支出	施設や設備が大規模であるため、更新や修繕の費用を縮減する必要があります。
保有量	今後の人口推移等を踏まえ、適切な保有量を確保していく必要があります。
その他	更なる循環型社会の形成に取り組む必要があります。

4 今後の取組

マネジメントの方向性

定期的な点検や予防保全を推進し、施設の安定的な操業を継続します。

具体的には…

老朽化	既に策定した計画に基づき、定期的な点検や予防保全を推進します。
財政支出	既に策定した計画に基づき、施設の長寿命化や維持管理費の縮減に努めます。
保有量	衛生プラントについては、年々増加する浄化槽汚泥の搬入量に対応するため、操業及び整備方法を検討します。
その他	クリーンセンターにおいては、焼却した際に発生する熱を回収し、発電・売電が行われ、財政支出の縮減に寄与しています。今後も技術の進展が見込まれることから、こうした技術を調査研究します。